

仙台マーチング委員会 (株式会社孔栄社様)

日本タウン誌フリーペーパー大賞 グルメ部門最優秀賞受賞！



「仙台朝市通信」タウン誌フリーペーパー大賞2016
のグルメ部門の最優秀賞受賞

- 日時：12月2日(金) 13:00～17:00
- 場所：国立科学博物館 日本館2F (台東区上野公園7-20)

会場風景



ミニネット媒体



グルメ部門



グルメ部門の最優秀賞の発表



ノミネートの5媒体紹介



審査員から最優秀賞に「仙台朝市通信」が受賞と発表



表彰式



佐藤社長から御礼のご挨拶

仙台朝市通信



仙台朝市通信 (宮城県/無料)



「仙台朝市通信」は、仙台の台所、仙台朝市の魅力を伝える季刊のフリーペーパーです。

グルメ大名「伊達政宗」が築いてきた食の歴史や豊かな食材、そして登場人物の笑顔が大きな魅力です。

今年で創刊2年目となりましたが、毎号、旬の食材をテーマに「売る人」、「買う人」が登場し、読者の方々に「食べてみたい」、「行ってみたい」という気持ちになってもらえるような媒体を目指しています。

全ページに仙台七夕の竹ざおを原料とした再生紙「竹紙」を使い、水彩画と写真による表現を組み合わせ、食材や朝市の雰囲気伝えていきます。

仙台のことをもっと知り、もっと好きになって、みんなで仙台を自慢する地域情報誌です。

誌面のQRコードから電子ブックへ誘導、臨場感のある動画サイトにも連携しています。

電子ブックの多言語化でインバウンドへも対応しています。

仙台の空港、駅の観光案内所、観光施設、宿泊施設などで配布しています。

審査コメント

夏の風物詩として有名な仙台の七夕祭り。その七夕祭りで使われた竹を再利用した竹紙（ちくし）を使用した『仙台朝市通信』。仙台の台所として、地元の人に親しまれている仙台朝市のお店やそこで働く人々、朝市に並ぶ旬の魚介類や野菜などをイラストや写真で丁寧に紹介している、A4サイズ、12ページの媒体です。

今回受賞した2016年夏号では、この時期に旬を迎える宮城県沖産の「のぼりカツオ」と「仙台ミウガ」を、特集「勝男とその妻」というユニークなタイトルで紹介。

わずか2ページの特集ではありますが、なぜ宮城県沖のカツオが1番おいしいのかということ、栄養学的な知見も入れながら、地元愛あふれるコピーと写真でインパクトを持たせて構成。

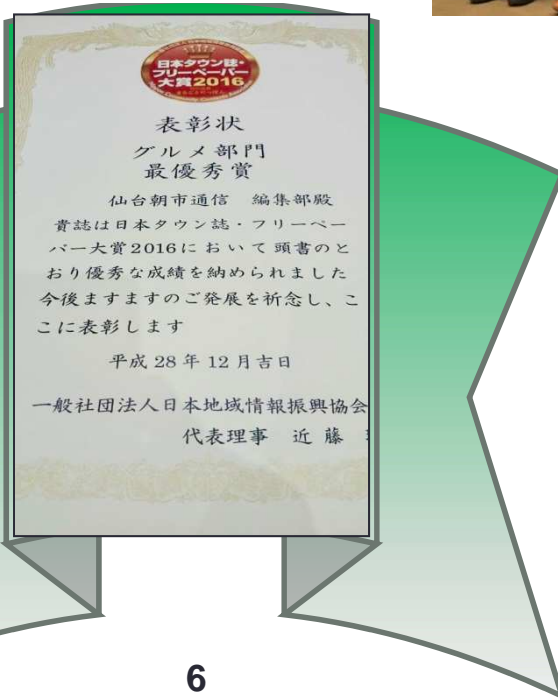
タイトルに使っている書体にもこだわりが見られました。

「朝市通信を読んだら、この朝市に行ってみたくなるよね」「この時期に三陸沖であるカツオを食べたくなるよね」と審査員全員一致でグルメ部門の最優秀賞に選ばせていただきました。

大賞・各最優秀賞受賞媒体対象者 記念撮影



おめでとう



審査員全員、仙台に行きたくなる素晴らしいフリーペーパーとのメッセージ。

タウン誌フリペ2016大賞受賞媒体



埼玉県発行 株式会社桜井印刷所



有限会社 イーズワークス

創業93年の印刷会社が地元・川越で2015年に創刊したフリーマガジン。
近年観光地として賑わう川越において、本誌は主に「住まう人」により川越の魅力を知ってもらいたい、と考えている。現代の「記憶・記録」として地元の人々の家の本棚においてもらえれば、とページ数（約60ページ〜）や用紙、製本にもこだわった。
自社のPR目的も兼ねているため広告費用は一切とっておらず、印刷のほか企画、デザイン、インタビューなどほとんどが自社スタッフで作成している。
年4回発行、地元川越を中心に約70ヶ所で配布中。

長崎の歴史の奥深さや自然の美しさ、そして文化の多様性にふれるたび、ネット社会においても、紙媒体でこそ表現する価値があるのではないかと考えていた。
しかし長崎には大人向けのエンターテインメント雑誌がなく、たまたま他県にあった季刊誌を見たことがきっかけで制作してみようになり発行人の思いだけで周りをまきこんで創刊したのが2008年7月。
楽のコンセプトは「知る、遊ぶ」。大人が知って楽しめる切り口とデザインで、いつまでも手元に保存してもらえるよう普遍的な情報に特化している。
昨年は楽の世界観に共感した企業（ホテル）が楽と楽の特集に関連する長崎の本を陳列した本棚のあるロビー「楽ラウンジ」を開設し、県内外で話題となっている。